



# みずほの丘の希望

令和7年01月08日  
第14号  
生徒数/405名  
文責/堀川博基

〒354-0018 富士見市西みずほ台3-14-6 TEL/049-252-4145 FAX/049-255-0233

2年生に転入がありました

## 明けまして おめでとう ございます

2024年が「あっ」という間に終わった…  
2025年が「あっ」という間に始まった…  
でも、時が「あっ」という間に過ぎるのは、  
「しあわせ」なことだと私は思う…

今年も全力で駆け抜けよう  
この1年が「あっ」という間に過ぎ去って行くように!  
すべての皆様にとって「しあわせ」な毎日でありますよう  
祈りつつ…

新春  
福

今年もよくお過ごし  
Well-being  
向って!!

西中生のWell-Beingと3年生の合格を祈りに…〇〇天満宮へ行ってきました。どこの天満宮でしょうか?

どこの天満宮(神社)かわかった人は校長室まで…小さなLuckyがあるかも

名物甘酒、合格あげまんじゅうも縁起を担ぎ食べてきました



撫で牛の頭、撫でてました…



地元の氏神様「針ヶ谷氷川神社」へもお参りしてきました…



西中から見るご来光と、照らされて輝く富士山▲です。神々しい…



あらゆる縁起物を集め、西中生の成長を祈っています…。気持ちだけでも通じれば…

保護者、地域の皆様、健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は本校教育活動への多大なるご理解とご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。  
教育課題は山積しております。本校でも例外ではございません。日頃からの皆様のあたたかいご支援が本校教育、強いては生徒一人一人の人間力を高め、成長を促しているものと確信しております。どうか本年も蜿蜒長蛇とご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2025年(令和7年)は、昭和に換算すると100年目に当たる。生徒諸君にとっては、大昔なのだろうが、昭和生まれの私としては「昭和100年」…その響きには感慨も深い。64年続き元号で最も長い昭和だ。その歳月は激動である。■ラジオ放送が始まったのは1925年(大正14年)、電波等の通信を介した放送は100年となる。「ヒッカピカの1年生」でおなじみの小学館「小学一年生」も同年創刊し100年を迎える。ちなみに『キューピーマヨネーズ』も100年だ。■太平洋戦争が終戦となったのは1945年(昭和20年)、今年は戦後80年となる。■50年前(1975年)には、「きのこの山」「ハイチュー」「ペヤングソース焼そば」が発売され、今も売れ続けている。■1985年(40年前)には、日航123便墜落事故(520名犠牲)という史上最悪の航空事故が発生した。また、この年に『スーパーマリオ・ブラザーズ』が発売され、PCゲームの先駆けとなった。そして平成(1989年)へ…■1995年(30年前)には、阪神淡路大震災(6434名犠牲)となった。地下鉄サリン事件が起る激震が走った。『Windows95』も同年に発売されインターネット時代へ突入する。■2005年(20年前)には、日本の人口が初めて減少に転じた。それからの人口減に歯止めはかからない。その後、東日本大震災(2011年)も発生し、経済低迷を象徴する「失われた30年」という時代となる。■君たちも生まれている2015年(10年前)、「オレオレ詐欺(特殊詐欺)」の発生が2015~16年にピークとなった。…このネガティブ(?)な世相は令和の時代に続いていく…。漠然と「昭和100年」をたどったが…斗折蛇行の激動の時代だったと言える。何の気なしに、この「昭和100年」を「明治」に置き換えてみた。すると「令和7年」は「明治158年」に相当する。いわゆる江戸時代未から158年だ。よくよく考えてみると…「ラジオ放送を聴く」「小学一年生を読む」「マヨネーズを食べる」…そのたった58年前は、身分制度があり、武士が刀を差し「ちよんまげ」を結って、鎖国制度をとっていたのだ。「小学一年生」が創刊されるたった58年前にだ…。江戸時代は265年、室町時代は232年、平安時代は386年と言われている。それぞれの時代で世の中が激変するような出来事は多々あったと思うが…。「明治・大正の58年」「昭和・平成・令和の100年」…この158年の激変に改めて驚きを感じているのは私だけであろうか…?  
「時」の経つのは「あっ」という間だ。時間を短く感じさせる要素に「ドーパミン」の分泌がある。この「ドーパミン」、時間感覚を関係が深いホルモンだとされている。一部研究から「ドーパミン」は時間を短く感じさせることが明らかになっているようだ。そしてこの「ドーパミン」あの「3大幸せホルモン」のひとつなのだ。【ドーパミンの分泌=楽しい、うれしい等の気持ちの高ぶりと同比例】するのだ。この1年、大変だとは思いますが、まずは「あっ」という間に過ぎたと実感できる1年にしてほしい…。多分、その裏付けには「楽しい、うれしい、達成、充実…」等の心が満たされる「しあわせ」が積み重なっているはずだから…。2025年も全力で駆け抜けよう!  
さて、西中も今年47歳(創立47年目)を迎える。あと3年で50歳の「知命」となる。「昭和100年」の約半分、明治元年から約1/3の年月、この「みずほの丘」に建ち続けている…。本年もこの西中をステージに頑張りましょう!

**終業式後の表彰…まさかの30分越えてした。これも西中生が全力で頑張ってくれている証拠です**

昨年最後の表彰、2カ月振りということもあり、多くの生徒が体育館舞台に登壇した。いつもは運動部の生徒が中心となるが、今回は各種コンテスト等での表彰が目立っていた。表彰だけで30分を要してしまい、大きな拍手で称賛していた生徒からは「校長先生、おしり痛い(笑)」と…。この痛みも西中生の努力の証として受け入れてあげてほしい。2025年も「巳」のように粘り強く活躍する西中生に期待する。

- 中学生の税についての作文 □富士見市教育長賞
- 全国書画展覧会 □特選/ □金賞/ □銀賞/
- 富士見市科学展 □優秀/
- 郷土を描く児童生徒美術展 □入選/
- 男子バレーボール部 □富士見市健康増進大会/優勝 □しらゆりカップ/優勝 □復活ダイヤちゃんカップ/優勝 □JOC ジュニアオリンピックカップ第38回全国都道府県対抗中学生バレーボール大会(2024.12.25~於/大阪)

**埼玉選抜チームにより出場**

- 男子ソフトテニス部富士見市民健康増進大会
  - 2年生の部 □優勝/ □2位/ □3位/
  - 1年生の部 □優勝/ □2位/ □3位/
- 女子ソフトテニス部富士見市民健康増進大会 2年生の部 □2位/

**吹奏楽フェスタ(2024.12.27)には何とか参加することができました…**

全国的にインフルエンザが猛威を振るうなかではあったが、富士見市吹奏楽部の【吹奏楽フェスタ】にギリギリ参加することができた。本校では一足早く流行がはじまり、臨時休業となってしまい…。吹奏楽部には、地域での演奏披露やとても楽しみにしていたクリスマスコンサートを断念させてしまう事となり、とても悔しい思いをさせてしまった。最後の最後に吹奏楽フェスタに参加することができて、本当によかったと思う。この吹奏楽フェスタ、昨年度までは3月の年度末に開催されていたものだが、今年度からこの時季となった。市内6中学校の吹奏楽部が「キラリ☆ふじみ」に集結し、日頃から練習を重ねた楽曲を披露する。フィナーレは各校の2年生が勢ぞろいしての合同演奏…その迫力は圧巻だ！西中吹奏楽部は…もちろん十分な練習時間があったわけではないので、心底満足する演奏ではなかったかも知れないが、日頃積み重ねた練習の成果を発揮し、さらに響く演奏を披露した。特にいつもの演奏ではなかなか披露できないソロ演奏場面を多く加え、各パートが持ち味を発揮した演奏となった。このフェスタ、入場制限がなく鑑賞できるので、来年度は更に多くの人たちに来場してもらい声援を送ってほしい。



演奏も、マイクパフォーマンスもばっちりど決まりました！！

**学校評価アンケートについてご協力ありがとうございました**

年末のご多様な時季に、学校評価アンケートにご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。保護者の方々には、学校全体で50.2%という半数を超えるご回答をいただきました。学校評価については学校教育法第42条及び学校教育法施行規則第66・67・68条により、その実施の詳細が定められています。実施・公表はもちろんのことですが、この評価の目的は「評価の結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずること」にあります。今後は生徒アンケート、教職員アンケート、保護者アンケートを総合的に分析し、数字を客観的に捉えつつもその意味をしっかりと確認しつつ、学校運営支援者協議会等による地域意見も吸い上げながら、西中がアップデートできる具体的方策を模索していきます。

ここで重要なのは、生徒の抱える課題解決に向けて練り込んだ方策が、保護者や地域の方々にも可視化され理解していただけることだと考えています。従前の紙面による方策の公表に+αを加え、よりわかりやすく理解いただけるよう努力して参ります。現在、全職員で方策を検討しているところですが、今しばらくお時間をいただき、皆様にお知らせいたします。よろしくお願いたします。

**西中持久走ベスト20**

体育館に掲示されている西中持久走男女ベスト20だ。保体の授業で昨年末に何度も繰り返しチャレンジした結果だ。西中生はチームで走る。決して孤独な持久走ではない、仲間が励ます、先生から檄が飛び、完走後は拍手が鳴りやまない。そんな環境が生徒を奮い立たせた挑戦へ誘う。掲示されていない生徒にとっても持久走の学びは、大きな自信となっていることであろう。男子の最後にランクインしているのは菅野教諭である。先生も頑張っている…？

**新聞から「決意」を…！ 各社の思いから自分の目標を考えてみよう…**

1997年、新聞発行部数は5376万部という数字を誇っていた。時代の流れを顕著に受けた新聞発行部数は2024年で2661万部とピーク時の半分以下だ。インターネット等の隆盛により仕方のない状況であるとは思いますが…。笑い話ではないが、学校でも「書初用の新聞を準備して…」と簡単にとは言えない状況である…。

昨年の1月号にも記したが、私の正月の楽しみのひとつは新聞各紙を読み比べること。元旦の落ち着いた時間に近くのコンビニまで出かけ数紙を購入し読み比べる。社説を読めば各社のイデオロギーがわかる。全体的に紙面をめくれば社会全体を俯瞰的に眺めることができる。文化面をつなげて読むだけでも今年の流行が予測できる。私のようなアナログ思考の人間には幅と奥行きと深さのある情報ツールだ。内容と同時に私が楽しみにしているのは紙面を飾る各社の広告だ…。1年のスタートに際し、紙面広告には各社の「意気込み」であり、「決意」であり、「思い」が表現される…。■昨年50-50という前人未到大活躍を見せた大谷翔平選手、今年も更なる飛躍を期待して『SEIKO』が登場させた。コピーは『SHO TIME 挑戦の時間を楽しめ。』だ。今年のMLBは東京ドームで開催する。今から大谷選手の活躍が楽しみだ。■例年出版社は、自社のキャラクターを使って広告を展開する。小学館は国民的キャラクターである『ドラえもん』をよく登場させるが…。今年は一面に、「ピッカピカの一年生」でおなじみの『小学一年生』を、朝日昇る海をバックに中心に配し掲載した。自分の中では「ピッカピカ」だと思っていたが…「ピッカピカ」だったと初めて知った。コピーには「子供たちは、いつの時代もピッカピカです。」とある。君たちにも、いつまでもこども「ピッカピカ」でいてほしいと願う。■三井物産の広告には共感を覚えた。多様性を意図しているのか、様々な人たちの笑顔が並ぶ…。キャッチコピーは「すべては、志からはじまる。」だ。志を持たなければ、行動にまで移すことはできない。「志を立てよう。本気になって、真剣に志を立てよう。生命をかけるほどの思いで志を立てよう。」(松下幸之助)。■スポーツメーカーのアシックス。今年もランニングに特化し、次のようなコピーを張っている。「可能性を疑ってみること、それも、時に、必要だ。可能性は、ひとつじゃない。時に、自分自身を疑うことで、思わぬ可能性に光が当たる。それが新たな強さになる。探そう、自分だけの強さを。届けたい。可能性。何と力強い言葉なのだろう…。君たちも自分の強さを！可能性を！信じてみよう…！

元旦の年賀状と新聞は心に刺さる。典型的なアナログ昭和世代なのかも知れないが、「挑戦」「ピッカピカ」「志」「可能性」等の言葉が眼に入ると…。年齢のせいであらう…眼の前がゆがんでくる…。さあ、2025年(令和7年巳年)…君たちはこの1年を一体どのように生きるつもりなんだ…。



今年はどうな挑戦を見せてくれるのか…

駆け抜ける、可能性。自分自身の可能性を信じる

ピッカピカに…

2025、君は志(目標)が見えているのか!?



すべては、志からはじまる。 MITSUBISHI LOGO